

■江原素六とその周辺 64

江原素六と広岡浅子

■シリーズ 沼津兵学校とその人材 106

細井昌徳とその墓碑

■おしらせ

二〇二三年七月

沼津市明治 史料館通信

通巻
150号



全国協同伝道門司市長尾氏官舎前記念写真

明治学院歴史資料館蔵

中央、着席の人物左端が江原素六、その隣が広岡浅子。

木村清松
宮川経輝
三浦宗四郎
森村市左衛門
井深梶之助
広岡浅子
長尾半平
江原素六

江原素六と広岡浅子

広岡浅子(一八四九〜一九一九)は、NHKテレビの朝ドラ「あさが来た」(二〇一五年放送)の主人公のモデルとなった女性実業家である。三井財閥の一族に生まれ、大阪の豪商広岡家(加島屋)に嫁ぎ、明治期には炭鉱・銀行・生命保険といった各種事業を手がけた。キリスト教に入信したのは明治四四年(一九一〇)と遅かったが、以後、日本基督教女子青年会(YWCA)中央委員をつとめ、娼娼運動に取り組むなど、社会事業にも貢献した。

ドラマでも描かれた通り、広岡は初の本格的な女子高等教育機関である日本女子大学校(現日本女子大学)の設立にも多大な協力をした。その準備段階、明治三〇年(一八九七)三月二五日に帝国ホテルで開かれた女子大学開設を目指す第一回創立披露会には、大隈重信らとともに江原素六・島田三郎らが賛成演説を行った(『東京朝日新聞』明治三〇年三月二六日付、『日本女子大学校四十年史』)。そして江原は、三四年(一九〇一)四月二〇日の開校式にも来賓として出席している(同三四年四月二二日付)。その頃から江原と広岡は知り合いだったことになる。

娼娼運動を推進する団体として明治四四年(一九一〇)七月に廓清会が結成された際、江原は発起人総代をつとめた(『日本娼娼運動史』)。発起人

兼評議員全四四名のうち一三名を占めた女性の中には広岡がいた(『廓清』第一巻第二号)。四四名中には、島田三郎(会長)・服部綾雄ら沼津兵学校・沼津藩ゆかりの人物も名を連ねている。

掲載した写真は、大正三年(一九一四)六月、福岡県の門司(現北九州市)で撮影された集合写真であり、前列中央に江原と広岡が並んで写っている。全国協同伝道の際に、クリスチャンだった鉄道院九州管理局長の長尾半平の官舎にて撮影されたもの。

全国協同伝道とは、一九一〇年にイギリス・エジンバラで開催された世界宣教大会の影響を受け、大正三年(一九一四)から六年(一九一七)まで、日本のプロテスタント諸派が共同して実施したキリスト教伝道のための一大キャンペーンのこと。全国大小の都市で祈祷会・講演会など各種のイベントが開催され、大正デモクラシーの世相とも相まって、教会数や信者数を一気に増加させるきっかけとなった。

門司などの関門地方では、大正三年六月五日から一日まで伝道が実施され、一〇〇件の集会が開かれ、聴衆は三二〇〇名、志道者は七五〇名にのぼったという。広岡も講演したし、江原は若松(現北九州市)の商業会議所で講演を行っている(『三年継続全国協同伝道』)。全国協同伝道において江原は、「各方面より最も多く要求せられたる弁士の一人」だったという(『基督者としての江原素六先生』)。

(樋口雄彦)

シリーズ 沼津兵学校とその人材 細井昌徳とその墓碑

富士市中里に以下のような銘文が刻まれた墓碑が立っている。



細井昌徳の墓碑
富士市中里

細井先生之墓(題額)

細井先生名昌徳家世仕幕府為与力明治維新隨徳川氏移居駿河為湖頭小学校長補訓導先生教人恂々不倦生徒悦服官數賜物賞之廿五年改湖頭為須津仍為其長廿九年十一月廿七日歿年五十七受業者謀立石以表其徳請余文先生長子鐘吉曾游余門余不能辭為之銘曰

古郷先生 死而祭社 求之於今 君其人也
墓石三尺 母請久磨 行者脱帽 騎者下馬
明治三十年一月 正四位勲三等田辺太一撰文
并書

細井昌徳は与力として幕府に仕えた家の人であり、維新後は駿河に移住し、富士郡の湖頭小学校の校長・訓導となった。その教育は行き届き、生徒はみな心服し、官から褒賞を授かることもしばしばだった。明治二五年(一八九二)に須津小学校と校名が改まった後も校長をつとめ、二九年(一八九六)二月二七日、五七歳で没した。教え子たちは墓碑の建設を計画した。墓誌の撰文を依頼された田辺太一は、昌徳の子鐘吉がかつて門人だったことから、断ることができず、この文章を書いた、といったことが漢文で記されている。なお、墓碑の基台には発起人、つまり教え子たちの名も列記されている。

他の文献によれば、昌徳は明治五年(一八七二)九月に富士郡中里村(現富士市)に開校した小学校・湖頭舎に赴任、その校長になったのは一五年(一八八二)二月のこととされる。一九年(一八八六)に中里尋常小学校と改称、さらに須津尋常小学校と改称したのは二三年(一八九〇)のことだったので(『須津小学校の歴史』)、墓誌には正確さに欠ける部分もあるらしい。



細井昌徳
細井邦生氏提供

そもそも、安政四年(一八五七)四月二十九日に昌平齋の二階通稽古を申し込み、五月二六日に初めて教授佐藤一斎(捨藏)に面会し授業に参加した、「先手稲葉金之丞組同心半兵衛子見習細井鐘之助」(『昌平坂学問所日記』Ⅲ)なる人物が細井昌徳その人であると考えられる。なぜなら、子孫宅に残された戸籍では昌徳の父親の名前は「半平」とされており、たぶん百官名の使用禁止を指令した明治二年七月の藩布達にもとづき、「兵衛」を「平」に改めたからであろう。そうになると、父は先手同心、昌徳自身も先手同心見習だったことになり、墓誌に記された「与力」は誤りということになる。稲葉金之丞正師は先手弓頭をつとめた旗本であり、その部下として与力一〇人、同心二〇人が配属されていたので、細井家は定員二〇人の同心の一軒だったわけである。鐘之助こと昌徳は、文久元年(一八六一)五月一三日には昌平齋へ入寮し、通学生から寮生に変わった。

東京へ出て中央官庁で活躍した洋学者に対し、明治初年静岡県内で小学校教師をつとめた旧幕臣には漢学者が少なくなかった。昌平齋の鐘之助と湖頭舎の昌徳を同一人物と考える理由もそこにある。また、昌徳の息子鐘吉は明治五年(一八七二)生まれだったが、父の通称から「鐘」の字を引き継いだのであろう。

ところで沼津兵学校との関係である。細井昌徳の名は、現在のところ廃藩前の史料中には見出せない。しかし、明治五年九月、学制にもとづく小学校の設立にあたり、それまでの藩立小学校廃止にともなう旧藩主からの慰労金下賜の対象者とし

て、駿東・富士郡で教鞭をとっていた教師四二名の一人として彼の名が登場するのである(拙稿「沼津兵学校附属小学校教授永井直方の日記」沼津市博物館紀要』23)。その時の彼の肩書は「教導筋取扱」といった。駿東・富士郡で藩政時代から教鞭をとっていた者たちとは、沼津兵学校附属小学校とその分校である沢田学校所・厚原小学所・万野原学校所の教員たちである。教導筋取扱として細井と名を並べている原源次郎は、富士郡居住の旧幕臣を管理した沼津勤番組九番頼世話役介だったことがわかっており(『沼津御役人附』)、そうになると細井も富士郡に居住していた可能性が高く、勤務先は富士郡に置かれた厚原小学所か万野原学校所だったのかもしれない。ただし、現在知られている両校の教員中に二人の名前はない。

後年、江原素六は講演の中で、沼津兵学校の附属小学校を複数設置した際の苦勞話として、どの村でも百姓たちが迷惑がるのを何とか説得しながら、六か所、もしくは一〇か所ほどに学校を建てたと述べる(『維新以来の教育を回顧す』『斯民』第五編第一号、一九一〇年四月)。現在知られている兵学校附属小学校は、本校・分校合わせ、前述したように沼津・沢田・厚原・万野原の四か所のみであり、六校もしくは一〇校というのは多すぎる。

しかし、明治五年九月、江原が主導して駿東・富士郡下で学制に依拠した最初の公立小学校を設立しようとした際の計画では、藩立小学校をそのまま継承する沼津(第一校)・沢田(第二校)・厚原(第四校)・万野原(第七校)に加え、長窪(第三校、現長泉町)・蓼原(第五校、現富士市)・大宮(第六校、

現富士宮市)の三校が加えられていた。全七校であれば、先の江原の講演内容とは符合する。ひよつとすると、これら三か所には、廃藩前に、すでに静岡藩立の小学校が設置されていたのだろうか？ それとも、三校はあくまで廃藩後の新設計画にすぎず、先の江原の回想は藩政時代のことと廃藩後のことを混同しているのだろうか？

元長窪村は沢田・方野原と同じく士族長屋が建てられた静岡藩士の集住地だが、蓼原村・大宮町はそれとは違う。とはいえ、士族集住地でないのは厚原も同じだった。元長窪では旧幕臣林如山が円蔵寺で子弟を教えたほか(大野虎雄「元長窪土着士族の事業」『静岡県郷土研究』第十八輯)、蓼原には明治元年から旧幕臣磯部物外が開いた私塾があったが(『静岡県富士郡誌』)、いずれも藩立小学校ではない。

藩政時代から富士郡で教鞭をとっていたらしいものの、厚原・方野原の教員中には見当たらない細井昌徳の存在は、蓼原・大宮に未知の藩立小学校が実在したことを意味しているのだろうか。ただし、それは全く的外れかもしれない。

墓誌の選者田辺太一が沼津兵学校一等教授だったことは言うまでもないが、その文面は細井と沼津兵学校との関りについては何も伝えてくれない。

ちなみに、昌徳の子鐘吉は、富士郡在住で沼津勤番組九番頭取だった小西敬之(数馬)の娘やすと結婚し、夫婦ともクリスチャンとなり、後年は救世軍で活動した。やすは東洋英和女学校の出身だったという。小西は江原素六と同じ撒兵隊に

お知らせ

令和4年5月15日(日)
JR沼津駅北口広場に新しく
建立された江原素六の銅像
の除幕式と献茶式が挙
行されました。



公益社団法人江原素六先生
顕彰会によって、江原素六誕
生180周年・没後100周年を
記念して建立されました。

沼津市明治史料館通信 第150号

令和4年7月25日

編集・発行 沼津市明治史料館
〒410-0051 沼津市西熊堂372-1

TEL 055-923-3335

FAX 055-925-3018

印刷 株式会社 耕文社

属した人。昌徳と同じく湖頭舎で教鞭をとった旧幕臣教師には、明治十年代に江原の富士郡での布教活動に協力した磯正民がいた。富士郡在住の旧幕臣と江原とは、キリスト教を介してもつながりが維持されたい。

本稿執筆にあたり、細井邦生様からは、昌徳の弟辰五郎が戊辰戦争に参加し戦死したことなど、ここに記さなかったことなども含め様々な情報提供をいただいた。記して感謝する次第である。

(樋口雄彦)



小西敬之
細井邦生氏提供
第二次長州征討時に撮影

史料館の イベント

**高校生のための
一日学芸員体験講座**
学芸員の仕事を体験しよう！
対象：沼津市在住・通学の高校生
月 日：8月4日(木) 10時～12時
定 員：10名程度(先着順)
8月3日までに電話で申込
持ち物：筆記用具・飲み物
参加費：無料

小学生歴史教室
～聞いて・みて・考えよう
私たちが住むまちの戦争のこと～
戦争体験者の話を聞いて、
戦争史跡を見に行こう！
対象：沼津市内の小学校4～6年生
月 日：8月9日(火) 9時30分～12時
定 員：10名程度
持ち物：飲み物・筆記用具・タオル・帽子
参加費：保険料1人24円

平和を考える戦争史跡めぐり
マイクロバスで市内の戦争史跡を見学しよう！
対象：市内の小学校4～6年生とその保護者
月 日：8月10日(水) 9時～12時
8月11日(木・祝) 9時～12時
定 員：各回ともに10名程度
持ち物：筆記用具・飲み物・タオル・帽子
参加費：保険料1人24円、資料代1冊300円

平和を考える戦争史跡めぐり・小学生歴史教室は、7月31日(日)16時30分までに電話、FAX、メール、直接のいずれかでお申込みください。応募者多数の場合は抽選となります。詳しくはお問い合わせください。